

豊川用水二期事業

～ どんな工事をしているの？ ～

○経緯

昭和43年の全面通水から豊川用水は、絶え間なく水を送り続けてきましたが、年月が過ぎ、老朽化によるコンクリートのひび割れや水漏れ等が起きるようになりました。もし、断水するような大きな事故になれば、農業、工業、生活用水など人々の生活への影響は計り知れません。そこで、水資源機構が事業主体となって平成11年度から施設の抜本的改修を図る「**豊川用水二期事業**」に着工しました。(工期：平成42年度まで、総事業費：2,484億円)



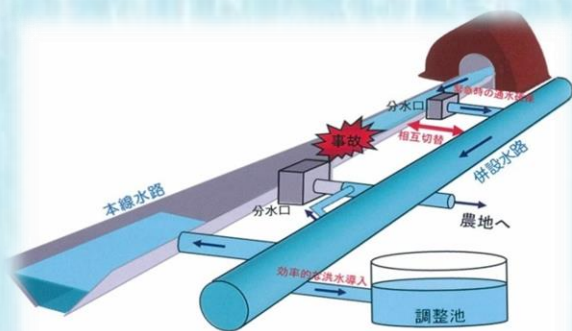
幹線水路のひび割れ



幹線水路の浮き上がり

○幹線水路の複線化

豊川用水二期事業では本線水路の改修と併せて、新たに併設水路を設置する「**複線化**」の整備を行っています。幹線水路の複線化により、水を止めることなく計画的な修繕・保守点検が可能になり、また、地震により本線水路が被災した場合なども通水確保が可能となります。



幹線水路の複線化イメージ図



本線水路は通水しながら、先行して併設水路を施工



併設水路の施工状況

○水路改築

先行して設置した併設水路で水を止めずに送り続け、本線水路を空にして改修を行っています。



本線水路（改修前）



本線水路（改修後）

○大規模地震対策

地震により被災した場合、二次災害の危険度が高い施設や応急復旧が長期化する施設について、地震による被害を未然に防止するため耐震対策工事を実施しています。



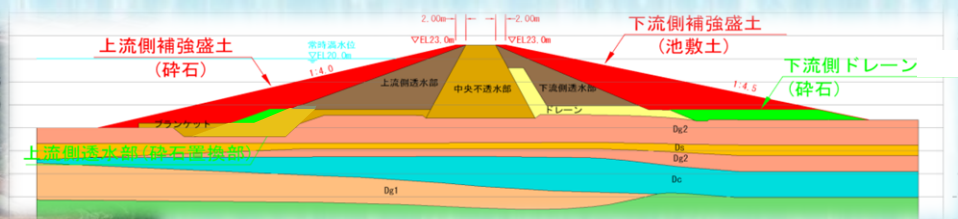
トンネル補強（炭素繊維グリッド工法）



サイホン補強（角形鋼管）



初立池（耐震補強工事 盛立完了）



初立池 耐震補強盛土断面図

○石綿管除去対策

昭和40年代まで農業用支線水路において多用された石綿セメント管の老朽化が進行し、破損等に伴うアスベスト被害の懸念が生じたことから、塩化ビニール管へ布設替えを行いました。

※石綿セメント管は、飛散防止に細心の注意を払いながら、撤去、処分しています。



撤去状況

○さいごに

豊川用水は、豊川用水二期事業により安全性等を確保することで、これからも安定した通水を行い続けます。次回は、「**豊川用水の恩恵**」と題して、通水により発展してきた東三河地域の受益者の声をご紹介します。